

第 2 回教科担当教員中央会議 議事録

日 時：平成 26 年 11 月 17 日（月） 14：00～16：10

場 所：東京ガーデンパレス 3F 桂

出席者：別記 1

配布資料：別記 2

○出席者の紹介、代表理事の挨拶、委員長および副委員長の選出

出席者からの簡単な自己紹介のあと、資料 1（薬学教育協議会の理念と目的、別表）に基づき、本会議開催の経緯と目的および薬学教育協議会の伊藤智夫理事が本委員会の担当理事であることを望月代表理事が報告した。また、第 1 回教科担当教員中央会議議事録に基づき、臨床化学関連教科担当教員会議と病態検査関連教科検討委員会を臨床関連教科担当教員会議に統合したことを望月代表理事が報告した。

続いて、本会議の委員長、副委員長の選出について協議し、委員長に前年度副委員長の山田安彦委員、副委員長に加藤正委員はどうかと望月代表理事から提案があり、全員異議なく提案を承認した。議事進行は山田委員長が務めることになった。

○報告事項

1. 平成 25 年度、26 年度各教科担当教員会議の活動報告

平成 25 年度および 26 年度教科担当教員会議について各教科の委員が以下の通り報告した。

【有機化学系教科担当教員会議】加藤 正 委員（東北薬科大学）

資料 4-1-2（有機化学系教科担当教員会議議事次第（H26.11.9））に基づき、平成 26 年 11 月 9 日に開催された「第 9 回有機化学系教科担当教員会議」について加藤委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・今年度は、「新コアカリへの移行に伴う有機化学教育（講義と実習）と卒業研究の充実・改善に向けて～6 年制薬学教育・研究の発展を目指して」を議題として会議を開催した。特別講演、アンケート集計報告および質疑応答、パネルディスカッションなどを行った。アンケート結果については、協議事項 4（各教科における改訂モデル・コアカリキュラムへの対応について）を参照。
- ・平成 27 年度の委員長に春沢信哉先生（大阪薬科大学）、副委員長に宮田興子先生（神戸薬科大学）が決定した。
- ・議事録は近日中に薬学教育協議会へ提出する予定である。

【生薬学・天然物化学教科担当教員会議】水上 元 委員（高知県立牧野植物園）

資料 4-2（生薬学・天然物化学教科担当教員会議議事録（H26.9.12））に基づき、平成 26 年 9 月 12 日に開催された「生薬学・天然物化学教科担当教員会議」について水上委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・モデル・コアカリキュラムの改定により、国家試験での天然物化学の出題数の減少、漢方が臨床科目になるなどの変更があった。これに伴い、各大学のカリキュラムがどのように変化したかについてアンケート調査を行った。アンケート結果については、協議事項4（各教科における改訂モデル・コアカリキュラムへの対応について）を参照。
- ・漢方担当教員や実務家教員と生薬学担当の教員がどのように連携していくかについて議論した。
- ・大学での漢方教育を共通化するために、新しい教科書の作成を進めている。

【分析化学系教科担当教員会議】宇野 公之 委員（大阪大学薬学部）

資料4-3（分析化学系教科担当教員会議議事録（H26.3.29））に基づき、平成26年3月29日に開催された「分析化学系教科担当教員会議」について宇野委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムでの変更点について説明があり、討論を行った。
- ・次回は日本薬学会第135年会の開催期間中（3月25～28日）に開催予定である。

【物理化学系教科担当教員会議】宇野 公之 委員（大阪大学薬学部）

昨年度は平成26年3月10日に開催したこと、また、次回は日本薬学会第135年会の開催期間中（3月25～28日）に開催予定であることを宇野委員が報告した。

【臨床関連教科担当教員会議】河野 武幸 委員（摂南大学薬学部）

資料4-4（臨床関連教科担当教員会議議事録（H26.3.30））に基づき、平成26年3月30日に開催された「第14回臨床関連教科担当教員会議」について河野委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムにどのように対応していくかが大きなテーマであった。
- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムでの「E 医療薬学」分野の主な変更点および「F 薬学臨床」分野のカリキュラム構築についての留意点を解説した。
- ・事前実習は1～4年次までの4年間で継続して行っていただきたいこと、実務家教員だけでなく他の教員も協力して進めていただきたいという内容の講演があった。
- ・今年度は、日本薬学会第135年会の開催期間中（3月25～28日）に開催予定である。

【薬理学関連教科担当教員会議】伊藤 芳久 委員（日本大学薬学部）

資料4-5（薬理学関連教科担当教員会議議事録（H26.8.28））に基づき、平成26年8月28日に開催された「平成26年度国公立薬理学関連教科担当教員会議」について伊藤委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・第99回薬剤師国家試験検討委員会薬理学部会で出題問題が討議された。出題問題は基準に合致しており、一部を除いて問題なかったことが説明された。
- ・「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴う薬理学関連教科に関するアンケート」を行った。アンケート結果については、協議事項4（各教科における改訂モデル・コアカリキュラムへの対応について）を参照。

【薬剤学教科担当教員会議】藤田 卓也 委員（立命館大学薬学部）

資料 4-6（薬剤学教科担当教員会議議事録（H26.8.29））に基づき、平成 26 年 8 月 29 日に開催された「平成 26 年度薬剤学教科担当教員会議」について藤田委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・第 99 回薬剤師国家試験検討委員会薬剤部会で出題問題が討議され、概ね良問であったことが報告された。また、選択肢の表現に不適切なものがあった一部の問題について討論した。
- ・第 99 回薬剤師国家試験問題の複合問題に焦点を絞って、実務家教員の立場からの評価結果を三原 潔先生（武蔵野大学）が報告した。
- ・1「薬物療法の安全性、医療情報、薬剤学」、2「進む分野別教育の質保障 - 薬学教育第三者評価 - 」と題した特別講演を行った。
- ・来年度は京都で開催する予定であり、委員長は藤田委員が引き続き務める。

【実務実習教科担当教員会議】

木津純子委員（慶應義塾大学薬学部）欠席であり、議事録等の提出はなかった。

【ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議】

石川 さと子 委員（慶應義塾大学薬学部）

資料 4-7（ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議議事録（H26.3.28））に基づき、平成 26 年 3 月 28 日に開催された「第 8 回ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議議事録」について石川委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムにどのように対応していくかが大きなテーマであった。
- ・本会議は世話人 6 名を固定し、毎年開催している。
- ・基礎科目を担当する教養系教員や実務実習を担当する教員など、幅広い分野の教員が出席する。
このため、学習成果基盤型教育と基本的資質の考え方について担当教員間での情報共有を目的として、平成 25 年 7 月 20（土）にワークショップを開催した。
- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに対して大学のカリキュラムをどのように変更したかについてアンケート調査を行った。アンケート結果については、協議事項 4（各教科における改訂モデル・コアカリキュラムへの対応について）を参照。
- ・平成 20 年から本会議で実施してきたアンケート結果を今後フィードバックする予定である。

【薬学と社会教科担当教員会議】中村 武夫 委員（近畿大学薬学部）

資料 4-8（薬学と社会教科担当教員会議議事録（H26.9.20））に基づき、平成 26 年 9 月 20 日に開催された「薬学と社会教科担当教員会議」について中村委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・「最近の薬事行政について」と題して薬事法の改正について厚生労働省田宮憲一氏が講演した。
- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムを効果的に実施するために、平成 26 年 2 月に行われたワークショップの報告書を配布資料とし、意見交換・情報共有を行った。
- ・来年度は奥羽大学で開催する予定である。

【衛生薬学教科担当教員会議】藤本 陽子 委員（大阪薬科大学）

資料 4-9（衛生薬学教科担当教員会議議事録（H26.2.28））に基づき、平成 26 年 2 月 28 日に開催された「第 8 回衛生薬学教科担当教員会議」について藤本委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・平成 27 年に改訂される「衛生試験法・注解 2015 版」および衛生薬学実習の教科書として用いられる「必携・衛生試験法」についての講演があった。「必携・衛生試験法」を改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した内容にするため、修正を行っている。
- ・2011 年の東日本大震災で福島原子力発電所事故を近くで体験された先生から、原子力発電所事故発生時に薬剤師ができること、必要なことについて講演があった。
- ・「近未来の薬剤師活動と薬学臨床教育」と題して講演があった。
- ・次回は平成 27 年 2 月 27 日に開催予定である。

【放射薬学教科担当教員会議】

大久保忠恭委員（大阪大学薬学部）欠席のため、4-10（放射薬学教科担当委員会議事録（H26.3.28））を参照。

【日本薬局方教科担当教員会議】藤田 卓也 委員（立命館大学薬学部）

資料 4-11（日本薬局方教科担当教員会議議事録（H26.4.19））に基づき、平成 26 年 4 月 19 日に開催された「平成 26 年度日本薬局方教科担当教員会議」について藤田委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・本会議には、分析関係、有機生薬関係、薬剤学関係の教員など、多分野の教員が出席している。
- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムでは日本薬局方という区分がなくなったことから、薬剤師国家試験のどの分野で日本薬局方を取り扱うべきかについて協議を行った。
- ・来年度は平成 27 年 4 月に開催予定であり、委員長は藤田委員が引き続き務める。

【微生物学教科担当教員会議】谷 佳津治 委員（大阪大谷大学薬学部）

資料 4-12（微生物学教科担当教員会議議事録（H26.3.30））に基づき、平成 26 年 3 月 30 日に開催された「平成 25 年度微生物学教科担当教員会議」について谷委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・平成 26 年 9 月に「微生物科学と医療のシンフォニー - 双方向の発展と大学の使命 - 」というテーマで微生物シンポジウムを開催した。
- ・薬学の教育において、基礎微生物学と臨床感染症学がどのように連携していくかについて意見交換を行った。

【医薬品情報学教科担当教員会議】山田 安彦 委員（東京薬科大学薬学部）

資料 4-13（医薬品情報学教科担当教員会議議事録（H26.7.11））に基づき、平成 26 年 7 月 11 日に開催された「第 4 回医薬品情報学教科担当教員会議」について山田委員が報告した。概要は以下の通り。

- ・「医薬品情報学を取り巻く教育および関連する薬剤師国家試験について」と題して意見交換を行った。

- ・「改定コアカリにおける医薬品情報学関連項目への各大学での対応状況について」というテーマで各大学に実施したアンケート結果の報告があり、意見交換を行った。アンケート結果については、協議事項 4（各教科における改訂モデル・コアカリキュラムへの対応について）を参照。
- ・「コアカリ改訂の経緯・目指すもの・作業概要・改訂概要」と題して特別講演があり、意見交換を行った。
- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムをどのように大学のカリキュラムに反映させるか、医薬品情報学をどのように教えるかについて多くの発言や提案があった。

○協議事項

1. 新しい教科担当教員会議の立ち上げについて

薬物治療、生物・生化学に関連する分野の教科担当教員会議がないのではないかと望月代表理事が指摘し、立ち上げについて協議を行った。薬物治療は臨床関連教科担当教員会議の中で扱うこと、それに伴い教科担当教員会議の名称を「病態・薬物治療教科担当教員会議」と変更するかについては、臨床関連教科担当教員会議で検討することを決めた。また、生物・生化学関連分野に関する教科担当教員会議を立ち上げること（または必要性の有無）については、本会議の委員が所属大学で当該分野の教員に伝えて検討してもらうことを決めた。

新しい教科担当教員会議を立ち上げる場合は、当該教科の教員が薬学教育協議会に申請し、薬学教育協議会が審議し、承認することを確認した。

2. ヒューマニティコミュニケーション教科担当教員会議について

本会議は対象とする教科がわかりづらく、低学年のみの教科であるという間違っただけの印象をもたれることが多いことから、会議名の変更を検討する予定であることを石川委員が説明した。

また、本会議は他の会議に比べ欠席者・出欠未回答者が多い。日本薬学会の学会と同日に開催しているため会員ではない教員の出席が難しいこと、毎年担当教員が変わる大学があるため、教員の意識が低いことも原因としてあげられると石川委員が説明した。薬学教育協議会が各大学の学長・学部長に本会議で扱う内容と重要性を説明し、意識が高く、会議に出席できる教員を大学に選出してもらう必要があるのではないかと伊藤智夫理事、河野委員が発言した。

3. 各教科担当教員会議の代表者・世話人と委嘱・任期等について

現在は各教科担当教員会議の代表者・世話人の名称が教科によって異なることから、委員長と統一した方がよいのではないかと提案があった。平成 27 年度からは世話人・代表者を委員長で統一すること、薬学教員名簿の教科担当教員会議のページに委員長を明示して記載することを決めた。

4. 各教科における改訂モデル・コアカリキュラムへの対応について

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応についてアンケートを行った有機化学系、生薬学・天然物化学、薬理学関連、ヒューマニティ・コミュニケーション、医薬品情報学の教科について、資料 5-1～5（5-1：有機化学系教科担当教員会議、5-2：生薬学・天然物化学教科担当教員会議、

5-3：薬理学関連教科担当教員会議、5-4：ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議、5-5：医薬品情報学教科担当教員会議）に基づき、各教科の委員がアンケート結果を報告した。

同様のアンケートを他の教科でも行ってはどうかと望月代表理事が提案し、協議を行った。アンケートの原案を山田委員長、加藤副委員長、薬学教育協議会で作成することを決めた。アンケートは、各教科担当教員会議の委員長から各大学の担当者に送るなど方法を今後検討する。

5. 教科担当教員会議補助金申請等に関わる手順について

資料6（教科担当教員会議補助金申請等に関わる手順書）に基づき、教科担当教員会議の補助金の用途、会議終了後の手続きなどについて須田事務局長が下記の通り確認した。

- ・補助金（10万円）は会議費用として使用する。懇談会には使用しない。
- ・会議終了後、2か月以内に下記①～⑤を薬学教育協議会に提出する。
 - ① 会議に費やした経費の収支記録
 - ② 領収書のコピー（注：謝金については、原本）
 - ③ 議事録（4ページ以内程度）、出席者名簿および議事次第
 - ④ 配布資料
 - ⑤ 次年度委員長の氏名および大学名（議事録に記載）
- ・領収書のあて名は、「薬学教育協議会〇〇教科担当教員会議」とする。
- ・謝金等の源泉徴収税がある場合は、会議終了後3日以内に領収書（原本）と源泉徴収税を薬学教育協議会事務局に提出する。（源泉徴収税は薬学教育協議会事務局より翌月10日までに納税する義務があるため）
- ・補助金に残金がある場合は、振り込みまたは現金書留で薬学教育協議会へ返納する。

6. その他

- ・教科担当教員会議での国家試験の出題内容検討について

いくつかの教科担当教員会議では薬剤師国家試験の出題内容について検討しているが、国家試験の内容は国公立関係者も含んだ日本私立薬科大学協会の国家試験問題検討委員会で十分に検討されているので、教科担当教員会議では取り扱わないことになっている旨望月代表理事が説明した。

- ・改訂モデル・コアカリキュラムに対応した教科担当教員会議の棲み分けを一覧にまとめ、取り扱い教科を明確にした方がよいとの意見が出された。
- ・今回提出が間に合わなかった教科の議事録やアンケート結果などは、後日薬学教育協議会に提出することを確認した。なお、議事録は薬学教育協議会のホームページに掲載し、各大学にフィードバックする。
- ・教科担当教員会議の開催方法について

学会やシンポジウムの休憩時間などの短い時間に教科担当教員会議を開催している教科がある。費用や時間の面から教科担当教員会議を単独で開催することは難しいのは承知しているが、関連学会の前後等に開催し、十分な議論の場を作っていただきたいと望月代表理事が要望した。

以上

別記1 第2回教科担当教員中央会議 出席者名簿

	氏名(敬称略)	所属	出欠
有機化学系教科担当教員会議	加藤 正	東北薬科大学	○
生薬学・天然物化学教科担当教員会議	水上 元	高知県立牧野植物園	○
物理化学系教科担当教員会議	宇野 公之	大阪大学薬学部	○
分析化学系教科担当教員会議			
臨床関連教科担当教員会議	河野 武幸	摂南大学薬学部	○
薬理学関連教科担当教員会議	伊藤 芳久	日本大学薬学部	○
薬剤学教科担当教員会議	藤田 卓也	立命館大学薬学部	○
実務実習教科担当教員会議	木津 純子	慶應義塾大学薬学部	欠
ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議	石川 さと子	慶應義塾大学薬学部	○
薬学と社会教科担当教員会議	中村 武夫	近畿大学薬学部	○
衛生薬学教科担当教員会議	藤本 陽子	大阪薬科大学	○
放射薬学教科担当教員会議	大久保 忠恭	大阪大学薬学部	欠
日本薬局方教科担当教員会議	藤田 卓也	立命館大学薬学部	○
微生物学教科担当教員会議	谷 佳津治	大阪大谷大学薬学部	○
医薬品情報学教科担当教員会議	山田 安彦	東京薬科大学薬学部	○
薬学教育協議会	望月 正隆		○
	須田 晃治		○
	伊藤 智夫		○

別記2 配付資料

1. 薬学教育協議会の理念と目的、別表
2. 教科担当教員会議名簿（平成26年度版）
3. 平成26年度教科担当教員会議 開催状況
4. 平成25-26年度議事録（最新）
 - 4-1-1：有機化学系教科担当教員会議議事録（H25.11.4）
 - 4-1-2：有機化学系教科担当教員会議議事次第（H26.11.9）
 - 4-2：生薬学・天然物化学教科担当教員会議議事録（H26.9.12）
 - 4-3：分析化学系教科担当教員会議議事録（H26.3.29）
 - 4-4：臨床関連教科担当教員会議議事録（H26.3.30）
 - 4-5：薬理学関連教科担当教員会議議事録（H26.8.28）
 - 4-6：薬剤学教科担当教員会議議事録（H26.8.29）
 - 4-7：ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議議事録（H26.3.28）
 - 4-8：薬学と社会教科担当教員会議議事録（H26.9.20）
 - 4-9：衛生薬学教科担当教員会議議事録（H26.2.28）
 - 4-10：放射薬学教科担当委員会議事録（H26.3.28）
 - 4-11：日本薬局方教科担当教員会議議事録（H26.4.19）
 - 4-12：微生物学教科担当教員会議議事録（H26.3.30）
 - 4-13：医薬品情報学教科担当教員会議議事録（H26.7.11）
5. 改訂モデル・コアカリキュラムについてのアンケート調査
 - 5-1：有機化学系教科担当教員会議
 - 5-2：生薬学・天然物化学教科担当教員会議
 - 5-3：薬理学関連教科担当教員会議
 - 5-4：ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議
 - 5-5：医薬品情報学教科担当教員会議
6. 教科担当教員会議補助金申請等に関わる手順書
 - 第1回教科担当教員中央会議 議事録